

# 県に支援を要望

県に対する市町村要望が9月22日、平泉郷土館で行われました。高橋町長、青木町議会議長らが達増県知事に対し、「平泉の文化遺産」の世界遺産登録推進や柳之御所遺跡の史跡整備促進など、11項目(新規2、継続9)について支援と協力を要望しました。

## 教育・文化関係

▼「平泉の文化遺産」の世界遺産登録に向けた支援について  
再び世界遺産登録を目指すためには、推薦書の再提出など登録に向けた業務が再び発生し、推薦書の作成や国際専門家会議の開催などに多額の経費が見込まれる。財政的に大変厳しい状況であるため、より一層の財政的な支援を要望したい。

▼柳之御所遺跡の史跡整備促進について  
平成9年3月に国の指定を受けた同遺跡については、保存に至った経緯なども考慮し、史跡整備の促進をお願いしたい。

▼国立博物館の誘致と平泉文化研究機関の早期設置について  
東北地方の歴史文化を総合的に調査研究する国立の研究施設設置や、平泉文化を総合的に調査研究する平泉文化研究機関



達増県知事に要望事項の内容を説明する高橋町長

## 道路・橋梁関係

▼主要地方道一関北上線と県道相川平泉線道路改良事業の促進について  
同地方道は通行車両が年々増加傾向にある。同県道は長島地区の一部で見通しの悪い急カーブが多く、交差点も幅員が狭い。改良整備に特段の配慮をお願いしたい。

▼県道平泉停車場中尊寺線の整備について  
中尊寺通り商店街の再活性化を図り、にぎわいと魅力あふれる商業空間を創造するため、歴史の町を感じることもできる街並みづくりや歩行者環境に配慮した整備などの促進をお願いしたい。

▼主要地方道花巻衣川線と県道長坂東前沢線とを連絡する平泉文化遺産ネットワークの整備促進について  
国道4号平泉バイパス終点部の接続計画では、町道愛宕線との接続交差点が複雑な構造となっている。主要地方道花巻衣川線のルート変更による整備をお願いしたい。

▼(仮称)中尊寺スマートインター整備促進について  
高速道路の中尊寺パーキンググ下り線にETCを利用したス

## 観光関係

▼JR平泉駅の機能強化に向けた支援について  
同駅への総合案内センターの設置と休憩施設の整備、ホーム連絡橋のバリアフリー化などについて、JR東日本への町と連携した要請行動と、財政的な支援を要望したい。

## 河川・農業関係

▼北上川上流改修一関遊水地事業の促進と農業振興について  
一関遊水地事業の促進と、水害に強い「飼料用稲」の生産拡大に向けた再生産可能な価格補償、飼料用稲の供給先の確保、乾燥、貯蔵施設の確保について、国への働き掛けをお願いしたい。

## 世界遺産登録

# 再チャレンジ

平泉の文化遺産は、平成23年の世界遺産登録を目指して、再チャレンジがスタートしました。このコーナーでは、登録に向けた取り組み状況についてお知らせしていきます。

## 第1回 推薦書作成委員会が始動

第1回平泉の文化遺産世界遺産登録推薦書作成委員会が9月22日、東京霞が関の中央合同庁舎第7号館で開催されました。委員会は、3年後を目指す「平泉」の世界遺産登録に向けて再作成される登録推薦書の具体的な記述内容について、学術的・専門的な立場から検討を加えるため、岩手県教育委員会が設置したものです。



世界遺産登録に向けた検討課題などを話し合った推薦書作成委員会の初会合

会議は、委員7人(欠席1人)のほか国、県、関係市町の担当者が出席し、公開で開催されました。初会合ということから、委員長を選任が行われ、工藤雅樹福島大学名誉教授が互選了承されました。今回は、7月の世界遺産委員会での決議に至るまでの経緯、今後の世界遺産登録再チャレンジに向けての検討課題などについて話し合われました。

今後は、「平泉」の顕著な普遍的価値の言明、登録基準の適用、構成資産の考え方、文化的景観の取り扱いなど、推薦書の根幹について、より具体的な内容を中心に、議論を深めていくこととなります。次回は10月14日に開催される予定です。

### 平泉の文化遺産世界遺産登録推薦書作成委員会委員

氏名	所属・職
稲葉信子	筑波大学大学院人間総合科学研究科教授
人間田宣夫	東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科教授
大矢邦宣	盛岡大学文学部教授
岡田保良	国土館大学イラク古代文化研究所教授
工藤雅樹	福島大学名誉教授(推薦書作成委員会委員長)
清水真一	東京文化財研究所文化遺産国際協力センター長
田中哲雄	東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科教授
西村幸夫	東京大学先端科学技術研究センター教授

# 平泉を掘る

今年4月に平泉中学校の北側で志羅山遺跡99次調査を行いました。調査前は水田として利用されていました。

調査によって、南に向かって傾斜していた土地を、南側の低い所は土を盛り、北側の高い所は地面を削って平坦面を造っていたことが分かりました。水田の下からは、掘立柱建物跡や土坑、沢跡が見つかりました。

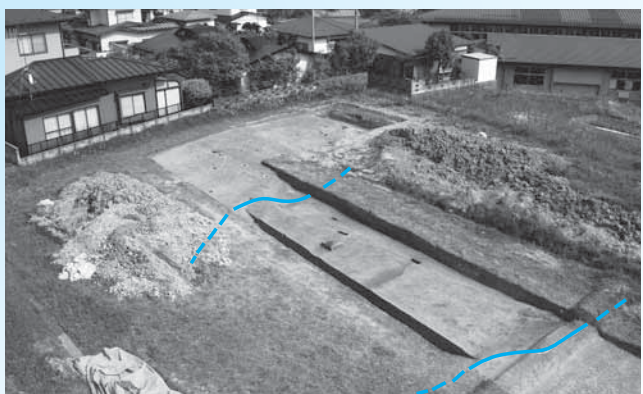
沢跡は、過去の調査でも今調査区の北側と南側で見つかっています。北から南に流れていた同一の沢跡と思われ、距離は50m以上になります。人為的に埋められた土の中からは、陶器やかわけなど12世紀の遺物が出土しています。これより新しい物は無く、沢は12世紀に埋め立てられたと考えられます。調査区内での沢の幅は14.3mでしたが、南側の調査個所では25.5mを測りました。深さは北側の調査区で2.3m、今回と南側の調査区ではそれぞれ1.8と1.5mまで調査しましたが

## 発掘最前線⑦

### —志羅山遺跡99次発掘調査—

底の部分まで到達していません。このように大規模に土地を埋め立てた土木工事の跡は志羅山遺跡のほかにも町内で見つかっています。

文化財センター 鈴木江利子



見つかった沢跡(北西から)

## 町ホームページ バナー広告を募集しています

町ホームページにバナー広告を掲載しませんか？皆さんの事業のPR媒体として、ぜひご活用ください。掲載料や申し込み方法など、詳しい内容については、町ホームページでお知らせしていますのでご覧ください。

町ホームページアドレス…<http://www.town.hiraizumi.iwate.jp/>



町ホームページ行政情報ページ